

第14回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然をよく見て、

作文や絵にくわしくかいてみよう

伊達 佐重

だて すけしげ
1932年三笠市生まれ
学芸大学札幌分校修了
三笠市立教育研究所所員
空知教育研修センター講師

はじめに

仲秋のころ、栗山町内の中学生と続けている山歩きがある。目的はキノコと植物の観察なのだが時間の制約もあり、いつもキノコ中心になりがちである。今年は生徒各人の持ってきた入れ物が、すぐ一杯になるほどの収穫があった。豊作のハナイグチ（らくようきのこ）をはじめ、食・毒入り混じってにぎやかな標本集めになった。

このお大師山の一帯では、この外に希少種のニホンザリガニの生息数調査、川の生き物調査、田植えと稲刈りなどの行事を小・中学生を中心に行なっている。

地域のいろいろな自然体験を通じて自分から謎を見つけ、その謎ときを息長く続ける人に育ってほしいと願っている。夏休み自然観察コンクールも全くその一線上の行事である。

○審査員

佐藤 謙（北海道自然保護協会会長）

坂本 雅彦（北海道新聞野生生物基金理事・事務局長）

在田 一則（北海道自然保護協会常務理事）

伊達 佐重（同 常務理事）

福地 郁子（同 常務理事）

江部 靖雄（同 常務理事）

三澤 英一（同 理事）

荻田 雄輔（同 理事）

堀 繁久（北海道開拓記念館学芸員）

○入賞者

金賞

梅田 優作（東神楽町立志比内小六年）
オニグモの観察

銀賞

細野 佳大（鶴居村立鶴居小二年）

銅賞

うんちを集まる虫たち
瀧澤 結菜（教育大附属札幌小四年）
かたつむりのふしぎ

長谷 朱莉（函館市立南本通小二年）
ありのかんさつ

村岡 柊有（別海町立別海中央小二年）
ミニトマトのかんさつ

福井 彩乃（札幌市立篠路西小三年）
「むくげ」日記

小出 斎（江別市立野幌小四年）
身近な昆虫図鑑

松永 渉（帯広市立帯広小五年）
昆虫おびきよせ大作戦

磯田雄一朗（室蘭市立白鳥台小五年）
ナミアゲハの成長記録

佳作

藤原 大地（江別市立野幌小一年）
さかしたのむし

中野 洸平（名寄市立豊西小一年）
かんさつにつき みやまくわがた

川井 良輔（函館市立桔梗小一年）
「エゾゼミのうか」のかんさつ

村井 創（天塩町立天塩小二年）
そうブルこん虫記〜天しおで見つけたこん虫

渡辺 舞（中札内村立中札内小二年）
おたまじゃくしと かえるのひみつ

宮腰 咲良（余市町立黒川小二年）
かえるになるまで

山口りおん（江別市立対雁小三年）
ありの研究「ありは本当に甘い物が好きなのか」

河合貫太郎（札幌市立真駒内緑小三年）
家のまわりの虫

佐藤 豊誠（厚沢部町立厚沢部小四年）
あつさぶのしぜん「あつさぶの川虫」

沢野 真由（厚沢部町立厚沢部小四年）
厚沢部川に住む魚たち

伊澤 佑佳（札幌市立あいの里西小四年）
ラディッシュの観察

小原 大樹（鷹栖町立北野小四年）
オサラツペ川調査表

濱野 凌（函館市立上湯川小四年）
ほたるの里

山口 彩紀（札幌市立真駒内緑小四年）
野菜の花の研究

西原 悠佳（札幌市立真駒内緑小四年）
雲について

中崎 蒼太（札幌市立北都小五年）
オオカマキリの観察

山本高太郎（札幌市立真駒内緑小五年）
メダカについて

山形 遥（札幌市立西園小六年）
ありについて

吉武 志音（東神楽町立志比内小六年）
水生生物

中野 聡也（北斗市立久根別小六年）
トンボに变身——ヤゴの観察日記

○学 校 賞

北見市立留辺蘂小学校

札幌市立真駒内緑小学校

東神楽町立志比内小学校

江別市立野幌小学校

第14回

夏休み自然観察記録 コンクール作品募集

募集テーマ

身のまわりの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。

応募資格 応募規定

道内に在住する小学生。

応募の例として

①作文だけ ②作文と絵 ③絵だけのいずれか。
画材、用紙、大きさは自由。

作文は表に、絵は裏にそれぞれ応募票を張る
（題、住所、氏名、学校名、学年、性別を明記してください）。

作文はページ番号、絵には順序を示す月・日や
番号を入れる。

※本年度（2007年）の作品で未発表のもの
〒060-0003

札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5
（社）北海道自然保護協会

☎011-251-5465

2007年9月18日（火）必着（郵送可持参）

入賞者発表

11月上旬までに北海道新聞紙上で入賞者を発表し、本人または在学する小学校へ名簿を発送します。

賞

金 賞 1 名（賞状、図書券10,000円）
銀 賞 2 名（〃 〃 7,000円）
銅 賞 6 名（〃 〃 5,000円）
佳 作 20 名（賞状、記念品）
学校賞 数校（賞状、記念品）

応募者の個人情報とは本事業以外には使いません。

待ってね！



身近な昆虫図鑑

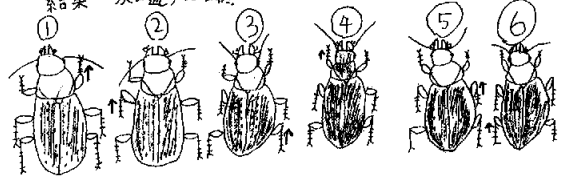


第13回の応募作品より

オサムシの歩く時のあしの順じ

調べた理由 オサムシはとてもあしが速くて調べたえがある
と思ったからです。

方法 ビデオカメラで、スローで見て調べました。
結果 次の通りになった。



エゾカマビロオサムシの観察

主 催：北海道新聞社、（社）北海道自然保護協会、（財）北海道新聞野生生物基金

審査を終えて

小さな発見こそ大事

審査委員長 伊達 佐重

梅田優作君の観察力とまとめ方は抜群でした。特に優れていたのは、カメラの拡大写真を転写し、説明文に取り入れて活用したことです。クモが古い巣糸を前足で片付ける動きまでよく見ていることにも感心しました。

銀賞の細野佳大君は、家で飼っている牛のうんちに集まる虫がうんちの分解を手伝っているという目で、虫の動きをまとめました。題材を身近な所から発見した良い例です。瀧澤結菜さんは、昨年から育てている二匹のカタツムリの交尾や産卵、成長の様子を記録しました。まとめに短い題をつけた、分かりやすい説明が光りました。

銅賞では二年生が二人入賞です。長谷朱莉さんはアリがどんな食べ物に集まるかを予想し、時間を計りながら実験をまとめました。村岡柊有さんはミニトマトの成長を二か月にわたって調べました。つぼみから実までの変化を示した図がよく描けていました。福井彩乃さんは生け花のムクゲを中心にした日記を細やかに表現しました。文章だけで入選を果たしたのは、読み手を引きつける書きぶりのせいでしょう。小出斎君は二年続いて昆虫図鑑で成功です。大胆な描き方が健在でした。松永渉君は昆虫をおびき寄せるためにえさを朝晩取り替える作戦でした。虫の名前を実によく知っているのが驚きました。磯田雄一朗君は今年もアゲハに挑戦しました。幼虫の大きさの変化、葉を

食べた量を表すのに折れ線グラフや棒グラフを上手に使いこなしていました。今年の応募者のうち何人かは、二年越しで継続している作品を出しました。もう来年の課題を決

めたと言っている人もいました。自分なりにこつこつと時間をかけて観察し、記録を取り続けることが大切です。頭の中にひらめいたことがあったら、もうしめたものです。

オニグモの観察

6月上旬までの観察の記録は、オニグモの生態を調べてみることにした。

<p>オニグモの生態</p> <p>家の裏の隅に、クモの巣がいくつかある。その中には、オニグモの卵がいくつかある。オニグモの卵は、メスのクモが産んだ。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。</p>	<p>オニグモの生態</p> <p>家の裏の隅に、クモの巣がいくつかある。その中には、オニグモの卵がいくつかある。オニグモの卵は、メスのクモが産んだ。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。</p>
<p>オニグモの生態</p> <p>家の裏の隅に、クモの巣がいくつかある。その中には、オニグモの卵がいくつかある。オニグモの卵は、メスのクモが産んだ。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。</p>	<p>オニグモの生態</p> <p>家の裏の隅に、クモの巣がいくつかある。その中には、オニグモの卵がいくつかある。オニグモの卵は、メスのクモが産んだ。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。</p>

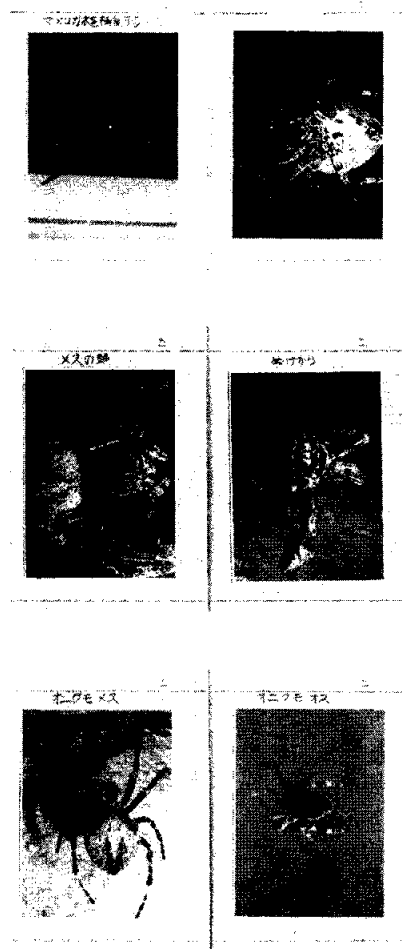
観察後記

オニグモの観察を始めてから、オニグモの生態が少しずつわかってきた。オニグモは、メスのクモが産んだ卵から孵化する。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。メスのクモは、卵を産んだ後、死んでしまった。

金 賞

梅田 優作 (東神楽町立志比内小六年)

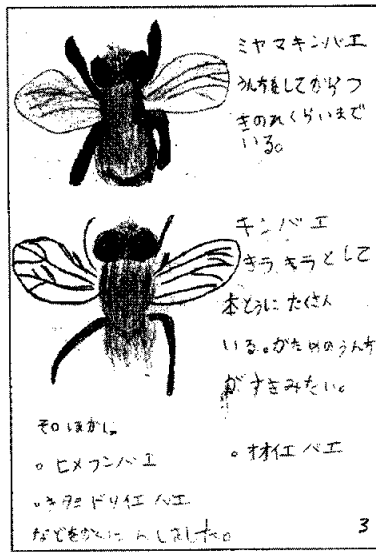
オニグモの観察 (部分拡大は次ページ)



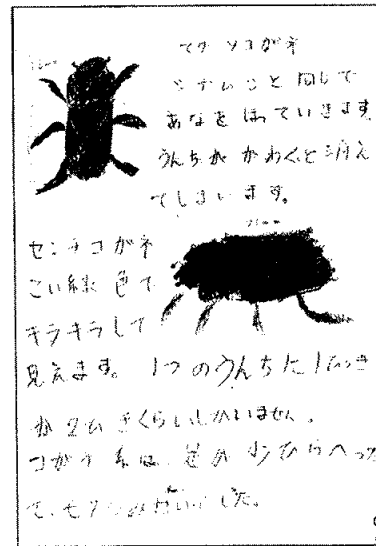
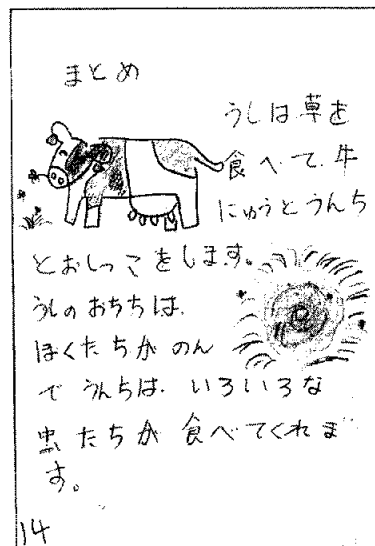


梅田 優作 (東神楽町立志比内小六年)

オニグモの観察 (前ページの部分拡大)



銀
細野 佳大 (鶴居村立鶴居小二年)



うんちに集まる虫たち

